

やすらぎ

平成21年11月1日
〔第127号〕発行 御所モラロジー事務所 発行責任者 吉田 実
〒639-2241 奈良県御所市茅原118-1 TEL/FAX 0745-64-3030 E.mail gose-mc@m5.kcn.ne.jp

セミナー反省会

9月29日午後8時30分より、第13回生涯学習セミナーの反省会が事務所で開催され、14人が出席しました。当初、セミナー終了翌日の19日に設定されていた反省会ですが、出席が思わしくなく流会になり、改めて設定されこの日になりました。



吉田代表は「反省会を始めます。お気づきの点があれば反省を踏まえて発言してください」と発言し、岡川実行委員長は「9月17日、18日とご苦労さんでした。セミナーが無事終了できました事を感謝します。参加申し込み270人、参加者1日目245人、2日目220人、1日でも参加した人は262人で、初めての受講者は64人でした。総数では昨年の251人から増加、初めての受講者は少し減少しています。良かった点、悪かった点をチェックしたいと思います」と話して反省会が始まりました。

各担当の印の責任者から発言し、それについて他の者が意見を述べたり、係全般について意見が出ました。

当時はインフルエンザの影響を心配して、マスクや消毒液を準備し万全を期したつもりであったが、会場の入場者定員や椅子の配置などについては非常事態時の意識が足りなかったとの反省がありました。また、お手伝い者の人材不足、高齢化の指摘があり、これは事務所全体の課題でこれまでの私たちの開発活動が不十分である事を如実に示しているのでしょうか。

最後に、吉田代表世話人より「前田部長から、報恩の金額や初受講者が多いと、御所事務所セミナーの成功を喜んでもらった。既に、12月5日までに来年のセミナー開催予定を決めるよう、書類が来ている。『来年の実行委員長をやります』と自主的に立候補して欲しい。女性の方も大いに歓迎します。事後開発の講演会を11月20日、加茂事務所の今西邦雄氏を招き開催の予定をしています。岡川さんは実行委員長として良くやって貰えたと思います」と話し反省会を終了しました。

目標どおりの参加を得、スムーズにセミナーを終えたようですが、それぞれの担当者が今までの経験や資料に基づき「ソツなくこなした」、事業消化型でマンネリになっていたと言ったような反省を、余り聞けなかったことは残念だった。

文書作成・記録保存係 米田徳七郎

女性クラブ勉強会と委員会

台風18号の紀伊半島上陸を間近かにした10月7日(水)午後1時30分から4時まで、女性クラブ勉強会と委員会をメンバー8名が参

加して開催しました。

細川参与御指導のもと、宣誓文の内容を熟読理解、自分中心の日常の心使いを反省致しました。

日常生活で本末をわきまえ、優先順位をたがえ



ず、感謝報恩と誠の心(真心)で日々暮らすことが安心した幸せな人生につながり、子や孫への教育になると、私達女性のあり方を教えて戴きました。そして、神の心になって博士が解り易く説いて下さっている語録を輪読しました。

その後、委員会では、80歳以上の事務所会員の方へのプレゼントの品の選定、新年の集いの日程と講師等についての検討、その他県協議会の報告等を行ないました。

女性クラブ 田村佳世

白鬚岳登山レポート

10月4日(日)、中秋の名月の翌日、一行6名で白鬚(しらひげ)岳をめざした。天気は快晴、絶好の行楽日和だ。

吉野郡川上村柏木の手前で吉野川を渡り、南朝ゆかりの金剛寺に車2台を駐車し、いざ出発。神之谷集落のそばから山道に入る。いきなりの急登だが元気に登る。どんどん高度をあげて尾根筋にでると、ところどころ南東方面の展望が開けていて、伯母ヶ峰・大台方面の稜線が目に入ってくる。頭上には大木たちが悠々と聳え、足元にはクヌギや樺のどんぐりがいっぱい落ちている。肌を感じる風が心地よい。

自然の恵みに満ち溢れた世界だ。何度か小休止をしながら1046mピークも越え、10時半ごろようやく東ノ谷分岐に到着した。

ここから先、小白鬚岳へはまたよじ登るような急斜面で、膝を思い切り上げて登る。そして30分後、小白鬚(1282m)に到着した。ここで昼食、湯を沸かす。夏の間、ざるそばを巔頂にしていたメンバーも、今日はラーメンやみそ汁の温かさが嬉しいと口をそろえる。梨や柿も今が旬時、季節はまさしく「天高く馬肥ゆる秋」だ。

食後、いよいよ白鬚岳をめざす。ヤセ尾根を通り、アップダウンを繰り返すと、途中展望の開けるところが幾度かあった。北側には中奥の集落が見えるし、南側は振り返るような位置に大普賢岳、



そこから大峰、台高の山々が連なって一望できる。さらに歩いて、足にも疲労が増した頃、目の前に三角錐の美しい山容があらわれた。めざす白鬚岳(1,378m)だ。山肌はすでに紅葉が始まっていて、赤や黄に彩られている。色鮮やかで独峰のように聳えている。あとひと登りで登頂だが、ちょっと疲れた私とUさんはここで休憩することにして、4人のメンバーが歩を進めた。

山頂でも眺望が素晴らしく、大峰山系が望めたとのこと。また「今西錦司先生1500山目の山」の石柱があり、裏面には「一山一峰に偏せず 一党一派に偏せず 錦司」と彫られているらしい。3年ほど前に登頂したとき、この石柱を見たが、裏面を読んだ覚えがない。しかし今回、この言葉

は記憶に留めておきたい。

頂上を踏んでこられた4人とほどなく合流し、全員で下山にかかる。帰路、急斜面の下りは地面が遠く、足に疲れがたまっているため膝の弾力性もなくなって、なかなか大変だ。「よくこんなところを登ってきたものだ。」と言い合いながら下っていく。東之谷分岐からは往路の尾根道とは異なり、沢筋を下ることにした。これがまたまた急勾配の下山道で、少しも気が抜けない。それでも、KさんとSさんの間で、どんぐりが飛び交っていた。延々と下って、ようやくふもとにたどり着いたとき、時刻は5時になっていた。温泉は断念して、車は一路御所へと向かった。御所に着く頃、東の空には十六夜月が皓々と輝いていた。

好天に恵まれ、今日も一日よく歩き、よく笑った。

久しぶりの登山で、明日はきっと筋肉痛に見舞われるだろうが、心身ともにリフレッシュすることができました。同行のみなさん、有り難うございました。謝謝。

本田 住子

生かして歩く(4) 尾根を歩く

近鉄、御所駅前の国道を北へ300メートルのところ、古ぼけたガソリンスタンドが在る。

早朝5時半以降には、必ずおよそ40分間程、そのスタンドの広場を黙々とウォーキングしている老人がいる。自動車が入って来れば給油作業に、終れば又ぐるぐる歩いている。年格好から見て、もう働く年令ではないはず。必然と生活苦に随順して糧を得る年老いた従業員なのだろうか。人の世の現実を生き抜いていくには、冬の暗がりの中、梅雨のしとしと雨に傘さして、働きかつ歩いて行かねばならない。この人が裕福な人で例えあったとするなら、きっとそれなりの持論を持ち合わせる変り者なのかもしれない。

百年に1度といわれる大不況がやってくるといわれて来た、台風到来の前の静けさ、吉凶禍福が錯綜しながら沈んで行く明日に、他にすべき事

柄が沢山あると思われる今、唯歩くことに没頭しようとなぜするのか。

彼は、来年は平城遷都1300年祭の観光案内人、再来年は4年に1度訪れる軒先行脚、その後は後輩たちの苦界で商売の手伝いに戻ろうとするらしい。日残りて昏るるに未だ遠し、その日にその亡き所を知る。

座ると歩くとは、相対す静と動であり、陰と陽と解す。道元禅師は「ただ座れ。」といった。吾は「ただ歩け。」と信じる。歩きながら考案し、見つければ心の中で追う。5分、10分と考える。15分で壊れだす。そして灰になり消滅する。「空」となって歩く。暗闇を歩く、方向を失って歩くと灯台の光が、一筋の光が遠くで発見する。

身を動かし、心を動かし近づこうと歩先を向け画策するが、練達した術に欠く。1年間続けていると閃くことが何度かある。その種子を畑に蒔き、水を与えて、人間は、人生はこうでありたいと成熟しきれない自分から他人に目を向ける。

何かのチャンスを求め、見つけるには、必ず人に会う。

どこかの街で何かをかりに知るべき時、喫茶



店で、散髪店へかよった。或る時「ならら」という奈良市内で発行されている月刊誌のサークルに入会した。女性の編集長のSさんと親しくなった。この雑誌内に毎月寺院や旧跡を訪ね見学するサークルがあり、主宰者は池田末則という地名学者で、当初から親切にされて来た。先生の名声は青年時代から知っていた。昭和40年代に先生と叔父との間に、あるエピソードがあってよりよく知って来た。

観光ガイドは字句を正しく、かつ字源を知ることが大事である。人生での出会いは、人生を色よく織りなして行く。

トーマス・マツムラ

明日香の案山子 2009年9月23日

今年の9月の5連休。旅行代理店が言い始めたのか「シルバーウィーク」。その最後の日、車を甘樫丘に止め、歩いて稲淵の棚田を目指す。

彼岸花の朝露を写真に納めようと、朝早く来たつもりだったがすでに道は車で一杯。一眼レフの高級なカメラを三脚に付け、リュックを背負った

人の多いこと。みんなの目的は「棚田の案山子



子のコンテスト。私も自慢のデジカメで撮影。次の日新聞で紹介されてました。

「棚田の案山子」は11月中旬まで展示されているようです。

うえだ

運営委員会報告

10月22日通常の運営委員会が午後8時より事務所で開催され、委員11人が出席しました。

吉田代表世話人は「明日、10月23日は暦の上で霜降です。新型インフルエンザも流行しているので、諸行事を行うにも細心の注意を払ってください。また、マニュアルがありますので、ご覧ください」と挨拶し議事に入りました。

報告事項

1. 第9回中日本センター講座(10月15日(木)~18日(日))を倉本佳洋さんと森村実さんの2名が受講をしてきました。事務所から受講見舞いを送っていただき、ありがとうございました。
2. 青年クラブは奈良県青年協議会の持ち回り企画を、来年4月18日(日)に開催します。企画書ができたので、それに基づいて進行していきます。11月21日(土)~22日(日)全国青年大会 in 四国が開催されます。事務所から3名参加で1人10,000円の

伊勢神宮お礼参拝

10月18日、第13回モロロジー生涯学習セミナー成功の御礼に、上田、山下、富士の副実行委員長と私の4人で伊勢神宮に参拝して参りました。始めに外宮(豊受大神宮)にお参りし、内宮(皇大神宮)では御垣内参拝と御神楽を奉納し、セミナーの成功の御礼と共に、11月20日(金)に予定されているセミナー事後開発の為の講演会の成功も御誓いさせて頂きました。

セミナー実行委員長 岡川福弘

助成金を全員が承認。

審議事項

1. 第13回生涯学習セミナー事後開発(講演会)を11月20日(金)19:00から事務所講堂で開催。講師は今西邦雄氏(加茂事務所)、役割はセミナーと同じで行う。地区委員会で申込書を配布しますので、募集をお願いします。
2. 平成22年第14回生涯学習セミナーの開催を9月16日(木)17日(金)(案)として文部科学省の後援申請のため、申し込みます。2会場または日曜日開催、女性みの開催、開催曜日の変更(案)の意見も出た。
3. 人権学習会を12月4日(金)に開催します。講師は代表世話人と人権教育推進委員で打ち合わせます。詳細は、来月の運営委員会で報告。
4. 事務所会費後期分を11月中に各地区委員が徴収します(11月29日を期日)。現在会員数は96名。
5. 満80歳以上の会員(10月22日現在、該当者は10名)へのお誕生日プレゼントについて審議し、紅白の饅頭に1品付けて、誕生日の当日または誕生日までに代表世話人と副代表世話人が直接、届ける。このプレゼントは、平成22年1月から実施する。

編集後記

先月、十月三日が中秋の名月(芋名月)でした。古来から秋の月を觀賞するものとされてきました。春の月は朧月(おぼろづき)、夏は涼しく見える秋は澄む月で冬の月は冴えるといわれてきました。月にも自然の四季があり、すばらしい、秋の澄み渡る月を眺めてみてはいかがでしょうか。

よう